

教員と保護者の協働的な関係形成のための基礎的研究
—保護者座談会と教員インタビューをとおして—

特別支援教育専攻

廣田そよか

指導教員 佐藤長武

第1章 序論

第1節 連携の重要性

価値観が多様化する複雑な社会状況の中で、子どもを取り巻く環境が急速に変化している。学校教育、とりわけ特別支援教育において、教員と保護者の連携・協働が、子どもの成長と発達への支援の要である。

第2節 連携の現状

先行研究から、教員の大多数が保護者との意識に齟齬が生じた経験を持ち、様々な方法で連携を試みるも支援ニーズについての意識の差異から保護者と教員の連携・協働は進んでいない。

第2章 調査内容及び結果と考察

第1節 問題と目的

文部科学省（2016, 2017）は、保護者は、児童生徒の重要な支援者であると述べている。障がいをもつ子どもの支援を効果的に進めるためには、教員と保護者の協働的な関係形成が必要である。そこで本研究では、障がいをもつ子どもの保護者の教育的ニーズと小学校教員の重視する指導内容について調査を行い、教員と保護者の協働的な関係形成のための基礎的な知見を得ることを目的とする。

第2節 保護者への調査の方法及び結果と考察

(1) 調査対象

A親の会に所属する、障がいのある小学生の子どもをもつ母親（3名）である。

(2) 調査期間

201x年7月～10月に実施した。

(3) 実施手続き

A親の会に参加する保護者に研究の概要を記載した文章を持参し、研究協力を依頼した。調査に同意が得られた保護者に研究の概要と研究倫理を厳守する旨を記した依頼文を配付し口頭による説明を行い、調査用紙を配付した。また、調査用紙記入後に、座談会形式による意見聴取を行いたい旨を伝え、了承を得た。

(4) 調査用紙の様式

子どもの属性（学年、在籍する学級種、障がい種）について記入を求めた。保護者が重要と考える指導内容、個別の教育支援計画、個別の指導計画、担任とのコミュニケーションの状況についてそれぞれ回答を求めた。

(5) 座談会形式による意見聴取

A親の会代表者に進行を依頼し、保護者3名による座談会形式での意見聴取を実施した。筆者は座談会に同席し、討議内容を記録した。

(6) 結果及び考察

①調査用紙

保護者の重視する指導内容は、「人間関係の形成」、「環境の把握」、「コミュニケーション」であった。保護者は家庭を中心に子どもと関わるため、他者との関わりや集団生活に関すること

は家庭では支援しにくいいため、重要度が高かったのではないかと考えられる。「個別の指導計画の」は、有効的に活用されていると回答した保護者が多くいたことから保護者と教員を繋ぐツールとしての活用が期待される。

②座談会

保護者は、生活面でのきめ細やかな支援を求めているが、教員に対する遠慮から連携が進んでいない。保護者との対等な関係づくりや教員の傾聴の姿勢が必要である。

第3節 教員への調査の方法及び結果と考察

(1) 調査対象

特別支援学級の担任経験のある小学校教員(3名)である。

(2) 調査期間

201x年7月～10月に実施した。

(3) 実施手続き

特別支援学級の担任経験のある小学校教員に、研究の概要を記載した文章を持参し、研究協力を依頼した。調査に同意が得られた教員に研究倫理を厳守する旨を記した依頼文を配付し口頭で説明し、調査用紙を配付した。調査用紙配布後、インタビュー形式による意見聴取を行いたい旨を伝えた承を得た。

(4) 調査用紙の様式

教員の属性(経験年数、性別、担当経験のある学年、担任経験のある障がい種)について記入を求めた。教師が重要と考える指導内容、指導目標の設定に関し重視すること、個別の教育支援計画、個別の指導計画、保護者とのコミュニケーションの状況について回答を求めた。

(5) インタビュー形式による意見聴取

個別のインタビューによる意見聴取をそれぞれ実施した。筆者は討議内容を記録した。

(6) 結果及び考察

①調査用紙

教員の重視する指導内容は、「健康の保持」、「心理的な安定」、「コミュニケーション」であった。これは、教員が集団場面で子どもたちと関わるため、他者との関係性を豊かにするため、心理的安定やコミュニケーションのを重視していると考えられる。

②個別のインタビュー

多くの教員が保護者との連携に困難を感じた経験を有していた。また、保護者同士の関係づくりは、セルフケアの面からからも有効で、学校や教員を理解しうる機会にもなり得る。

第4節 まとめ

教師と保護者は子どものより良い成長・発達を望む方向性は同じであるが、子どもをとらえる場が異なることを念頭に置き、保護者の子どもの捉えをひとつの視点として尊重しお互いの意見や考えをしっかりと共有・すり合わせていくことが効果的な双方向の連携のポイントである。

第3章 総合考察と今後の課題

第1節 総合考察

保護者、教員の教育観や価値観は多様化しているが、子どもの自立や社会参加にむけて進むべき方向性は同じである。保護者それぞれの実情やニーズに合わせた教員の的確な判断と配慮が求められている。保護者の思いに寄り添う姿勢が今まで以上に教員に求められている。

第2節 今後の課題

調査対象費拮げた調査や障がい種による検討及び既存のツールである個別の教育支援計画や指導計画を活用しつつ、両計画作成時に保護者、教員を繋ぐコミュニケーションツールの開発が望まれる。